

# 道徳教育方法研究

第 10 号

2004

## I. 研究論文

1. 我が国における道徳の時間の特性と課題に関する一考察  
—米国キャラクターエデュケーションとの比較研究として—  
朝倉 淳
2. 中学校における道徳の時間の役割と指導の進め方に関する一考察  
—マルチモーダルアプローチの提案—  
伊藤 真哉
3. ヒトゲノム研究と学校教育  
—知識に基づく道徳上の判断を育成するために—  
上蘭 恒太郎
4. 教師の道徳的役割について  
—Carr.D における道徳的 exemplar としての教師の概念モデルを手がかりにして—  
谷田 増幸
5. ロールプレイを用いた共感性の育成教材による教育効果に関する研究  
松岡 敬興
6. 道徳的価値と道徳的規範  
—道徳授業を充実させるために—  
森岡 卓也
7. 対面性を重視した道徳授業  
—互惠性を引き出す授業形態—  
鍵水 浩
8. 「コミュニケーション的行為の理論」を実践に生かした道徳学習に関する研究  
—ディスクルスを中心とした道徳学習—

淀澤 勝治

9. 中学校における「モラル・スキル・トレーニング」プログラム開発

渡邊 真魚

II. 実践研究報告

1. 「心のノート」活用の趣旨に沿った一実践

佐藤 由佳 / 服部 敬一

III. シンポジウム 規則の意味を考える道徳授業

1. シンポジストの発表資料

(1) 規則・規範の意味を考える授業のあり方について

—「法教育」が問いかけるもの—

江口 勇治

(2) 規則の意味を考える道徳授業

—判決文を活用した授業実践—

上猶 寛

(3) 規則の意味を考えさせる道徳授業

服部 敬一

2. 司会者のまとめ

(1) シンポジウムのまとめ

堺 正之

IV. 会務報告

V. 日本道徳教育方法学会会則

VI. 『道徳教育方法研究』投稿規定

VII. 欧文サマリー

編集後記